

予防接種を受ける前に

(1) 予防接種を受ける前の一般的な注意事項

带状疱疹予防接種について、必要性や副反応についてよく理解しましょう。気にかかることやわからないことがあれば、予防接種を受ける前に、かかりつけ医や看護師に質問しましょう。十分に納得できない場合には、接種を受けないでください。予診票は、接種をする医師にとって予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が責任を持って記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

【生ワクチンを接種する女性の方へ】

妊娠を希望する女性は、あらかじめ約1か月間避妊をした後、接種してください。また、ワクチン接種後2か月間は、妊娠しないように注意してください。

(2) 予防接種を受けることができない方

- ① 明らかに発熱のある方（一般的に37.5℃以上の方）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ 水痘・带状疱疹予防接種ワクチンに含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある方
- ④ 妊娠していることが明らかな方（※1）
- ⑤ 先天性及び後天性免疫不全状態の方（※1）
（例えば、急性及び慢性白血病、リンパ腫、骨髄やリンパ系に影響を与えるその他疾患、HIV感染またはAIDSによる免疫抑制状態、細胞性免疫不全などによる。）
- ⑥ 副腎皮質ステロイド剤、免疫抑制剤、抗リウマチ剤や抗悪性腫瘍剤などの薬剤による治療を受けており、明らかに免疫抑制状態の人（※1）
なお、以下の薬剤は、生ワクチンの添付文書に、併用禁忌と記載されております。
 - ・副腎皮質ステロイド剤（注射剤、経口剤）：プレドニゾンなど
 - ・免疫抑制剤：シクロスポリン（ネオーラル、サンティミュン）、タクロリムス（プロGRAF）、アザチオプリン（イムラン）など
- ⑦ 上記に掲げる方のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある方。
持病などがある場合は、接種前にかかりつけ医に相談しましょう。
（※1）④⑤⑥については、生ワクチン接種者のみ

(3) 予防接種を受ける際に、医師とよく相談しなくてはならない方

- ① 心臓病・腎臓病・肝臓病や血液の病気などの基礎疾患がある方
- ② 今までに、予防接種を接種後2日以内に発熱、発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う症状がみられた方
- ③ 薬の投与または食事で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある方
- ④ 今までに、ひきつけ（けいれん）を起こしたことがある方
- ⑤ 今までに、免疫状態の異常を指摘されたことのある方、もしくは近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑥ ワクチンに含まれる成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方
- ⑦ 妊娠の可能性がある方
- ⑧ 血小板が少ない方や出血しやすい方（※2）
- ⑨ 授乳中の方（※2）
（※2）⑧⑨については、不活化ワクチン接種者のみ

予防接種を受けた後で

(1) 予防接種を受けた後の一般的な注意事項

- ① 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起きることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
- ② 接種後に高熱やけいれんなどの異常が現れた場合には、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ 接種後数週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときは医師に相談してください。
- ④ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすことはやめましょう。
- ⑤ 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や多量の飲酒は避けましょう。

(2) もし体調が悪くなったら…

予防接種の後、まれに副反応が起きることがあります。また、予防接種と同時に他の病気がたまたま重なって現れることがあります。

接種した部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、医師（医療機関）の診察を受けましょう。

(3) 予防接種健康被害救済制度について

予防接種によって引き起こされた副反応により、万一、重篤な健康被害が生じ、その健康被害が予防接種によるものと認定された場合には、国分寺市予防接種事故災害補償制度により、健康被害の程度に応じて補償を行います。また、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）が実施する「医薬品副作用被害救済制度」により、一定の給付が受けられる場合があります。（予防接種法による救済制度とは異なります。）

給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、国分寺市健康推進課へご相談ください。